

受理年月日	令和3年8月3日	所管委員会	福祉都市委員会
番号	3年陳情第21号		
件名	感染症専門病院の設立を求める意見書議決について		
陳情者	愛知県安城市百石町二丁目17-6 社会の歪を鋭く追及 政策提言する世直し集団 一輪のバラの会 代表 加藤 克助		
分割送付	なし		
要旨	<p>明治から昭和の戦中戦後までは、日本の医療提供体制は感染症との闘いと言っても過言ではありませんでした。しかし、戦後、栄養状態の改善や、結核に対しては化学療法剤などが誕生して、大幅に結核の死亡者が減少しました。この時期から医療提供体制は感染症から成人病（脳疾患、心疾患、がん）に移行していきます。そして、現在の国内の医療提供体制の公的、民間の比率は、公的病院数約20%、民間病院数約80%です。このように、感染症対策を主に担っている公的病院に過度に負担がかかっているのが現状です。</p> <p>また、地理的に島国である我が国は戦後のパンデミックの脅威から逃れていましたが、国の政策の一つとして観光立国を目指しているため、今回のパンデミックが終息すれば再び外国から多くの人々が入国します。国はパンデミックについて防衛政策と同じく有事と考えるべきです。</p> <p>よって、以下の事項について、福岡市議会が国に対し意見書を提出するよう陳情します。</p> <p>1. 公的感染症専門病院を大都市圏に設立すること。</p>		

令和3年7月29日

福岡市議会議長
伊藤 嘉人 様

社会の歪を鋭く追及
政策提言する世直し集団「一輪のバラの会」
代表 加藤 克助 [REDACTED]
愛知県安城市百石町2丁目17の6
〒446-0044 ☎0566-76-7465



国に感染症専門病院を設立すべきと福岡市議会が意見書を提出することに関する陳情書

趣旨

明治から昭和の戦中戦後までは、日本の医療提供体制は感染症との戦いと言われても過言ではありませんでした。しかし、戦後栄養状態の改善や、結核に対しては化学療法剤などが誕生して、大幅に結核の死亡者が減少しました。この時期から医療提供体制は感染症から成人病（脳疾患、心疾患、がん、）に移行して行きます。

そして、現在の国内の医療提供体制の公的、民間の比率は公的病院数約20%民間病院数約80%です。このように、感染症対策を主に担っている公的病院に過度に負担がかかっているのが現状です。

又地理的に島国である我が国は、戦後のパンデミックの脅威を逃れていましたが、国の政策の一つとして観光立国を目指しているため、今回のパンデミックが終息すれば再び外国から多くの人々が入国します。国はパンデミックについては国の防衛政策と同じく有事と考えるべきです。

それゆえに、大都市圏に公的感染症専門病院を設立するように福岡市議会は厚生労働省に意見書を提出して下さるようお願いする次第です。

事項

- 1, 国に公的感染症専門病院を大都市圏に設立するように福岡市議会は厚生労働省に意見書を提出して下さい